

みんなで取り組む「SDGs」

市内の各学校で授業を開始しました

これまでの広報くしまで「SDGs」について紹介しましたが、本市ではSDGsの普及・展開を図る取り組みを行っています。

「SDGs」とは？

S……Sustainable (持続可能な)
D……Development (開発)
Gs……Goals (目標)

の略であり、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のことです。

日本では、以下のとおり17の開発目標がありますが、国内の認知度は2020年3月時点でなんと32.9%。その中でも、内容まで詳しく知っている人はまだまだ低い状況です。しかしながら、SDGsの重要性はとても高いものであり、企業や自治体、団体、学校などさまざまな場所で、いろいろな取り組みをされています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

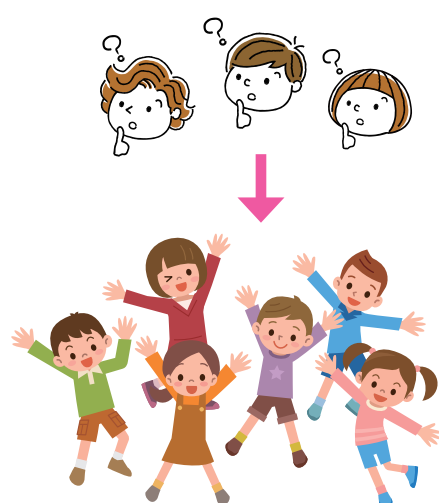


カードゲームを利用したSDGsの授業を行いました

本市では、10月末より大平小学校を皮切りに、各小学校の5年生複式学級は6年生を含むを対象に授業を開始しました。これに先立ち、10月1日には、西都市にある妻高校からも依頼を受け、1年生と一部の3年生を含む、約150人を対象に授業を行いました。

授業の内容は、カードゲームを利用したSDGsの「要点・基本となる考え方」を学び、「持続可能とはどういうことか、持続可能な社会を作ると私たちにどう関係するのか」など、持続可能な社会を作るために必要な考え方や姿勢について理解を深めてもらうものです。

つまり、「全く知らない、聞いたことあるけどよく分からない」状態から、「知っている、内容が分かる」状態を目指す入り口のところです。



今日SDGsは、大学受験や就職試験にも大きく関わっており、SDGsに対する取り組み、社会貢献に対する関心が高まっています。そのため、学生や管理職にあたる世代の認知度が高くなっています。

また、現在の高校生、大学生の就職活動には、企業の売上高や利益率よりも、「働きがいがあるか、女性が活躍できるかどうか」といったSDGsの取り組みを重視している現状もあると言われています。

本市は小中高一貫教育を掲げており、串間中学校では「くしま学」、福島高校では「地域創生学」といった地元の活性化策などについて学ぶ授業もあることから、さらに児童一人一人が本市の持続可能なまちづくりについて理解を深めてもらえるのではと考えています。

一人でも多くの方がSDGsに関心を持ち、意識して取り組むことで、より環境も良く住みやすい、持続可能なまちになっていくのではないのでしょうか。

●ゲームの内容について

ゲームは、資源カードを使ってアイテムを作成し、アイテムごとに設定されているポイント数を競い合うシンプルなゲームです。計2ゲーム行い、それぞれルールを変えてプレイ。参加者は2つの世界を体感することで、SDGsの要点を深く理解できます。

ゲームの対象は小学3年生から大人まで幅広く、また小学3年生以下でも、上級生や大人と一緒にであれば参加することができ、世代を問わず楽しみながら学べる内容となっています。

どの学校でも興味深い意見や考えが聞けました



授業を行っている方に聞きました



私自身、今世界で起こっているさまざまな問題は、起こるべくして起きているものだとしひしと感じており、SDGsの内容を知るにつれ、SDGsの理念を持ち、実践することがいかに大切かと感じています。今年の7月1日より全国的にレジ袋が有料化されましたが、

私の出身地、関西では数年前から多くの場所で有料化が始まっています。もともと、不要なレジ袋がたまっていたのが嫌だったこともあり、これをきつかけに始めたエコバック持参。また、サーフィンをするため、海に入る機会が多く、海を汚さないために始めた洗剤などが

の配慮。これは、環境に気を遣うサーファーが多く、私の周りのサーファーがやっていたことがきっかけです。これらもSDGsの取り組みにつながっているのだと気がきました。

います。しかし、周りの影響から意識し始め、SDGsのことを知ってから、さらにいろいろなことを考えるようになりました。今後自分ができることを見つけ、できることから実践していきたいと思っています。